

誰かに話したくなる!

# 愛媛 練りもの トリビア

おやつから、おかずまで。ファストフード・オプ・愛媛として幅広い年代に愛される練りものたち。素朴な姿からは想像できない意外な真実と味わい深い小ネタを、にゅにゅと集めました。



## 愛媛には、じゃこ天が天を舞う奇祭がある。

毎年11月に開催される「宇和島じゃこ天カーニバル」。商店街「きさいやロード」を舞台に大いに盛り上がる。市内店舗が集い人気の練りものを販売するコーナーでは、じゃこ天やじゃこカツの実演販売もある。宇和島市民



じゃこ天をかたどったイメージキャラクターのじゃこ子とじゃこ太も大活躍。毎年熱戦が繰り広げられる人気イベントのひとつ「伊達櫓合戦」は、かまぼこ板を時間内にどれだけ高く積み上げるかを競うチーム戦。

※平成30年の「宇和島じゃこ天カーニバル」は7月豪雨被害により中止



「じゃこ天」と命名した小惑星は、中村氏にとってなんと通算103個目の小惑星命名。これまでも愛媛県内の地名や著名人の名も付けており、久万高原天体観測館にはそれらの小惑星が写真パネルで展示されている。

## 宇和島のかまぼこは仙台と縁が由来?

伊達十萬石の城下町として栄えた宇和島。1615年に宇和島城に入城した初代藩主・伊達秀宗は、かの仙台藩主・伊達政宗の長男だ。秀宗が仙台からかまぼこ職人を連れてきたことから、宇和島にその製造技術が伝わったという説がある。ただ宇和島は



宇和島城は1596年から1601年に築城の名手・藤堂高虎が創建。その天守は国内現存12天守の一つに数えられ、藩政時代の面影を今に残す。秀宗以降歴代藩主たちもここをかまぼこを食されたのだろうか。



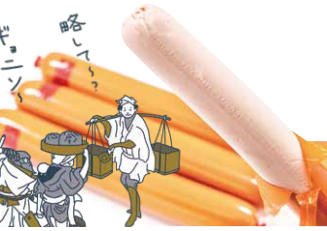
一人何点でも応募でき、一作品をグループで手がけても良い。大賞受賞作品を始め、一次審査通過作品以上を集めた作品集も出版される。愛媛のかまぼこを食べて、入賞目指して応募にチャレンジしてみよう。

写真提供:ギャラリーしろかわ

**世界規模のかまぼこ板アート展、愛媛で開催。**  
愛媛県西予市にある西予市立美術館「ギャラリーしろかわ」では、全国「かまぼこの板の絵」展覧会を開催している。2019年で25年目を迎え、プロ・アマ、年齢も問わず誰でも応募でき、描くテーマも自由な展覧会。毎年全

## 魚肉ソーセージを開発したのは愛媛の練り物職人だ。

時は戦後。愛媛県八幡浜市で、新たな食の歴史が始まった。「これからの日本は洋食化する」。そう予測した有志たちがかまぼこのソーセージ化に着手し、1950年に日本初の魚肉ソーセージ「スモークミート」が完成した。



現在では様々なバリエーションがある西南開発株式会社の魚肉ソーセージ。創業当時の味を蘇らせた「元祖魚肉ソーセージ」も評判だ。100%国産アジを使用し、当時を知る年配社員の記憶も頼りに復元したそうだ。

